

宿根アスターの吸枝の低温貯蔵による10～4月出し栽培法							
<p>【要約】 宿根アスターの10～4月出し栽培は吸枝（株）を低温貯蔵して栽培することにより品質の良い切り花を取獲することができる。また、挿し芽等の育苗管理を省力化することができる。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園芸	専門	栽培	対象	花き類	分類	普及

【背景・ねらい】

宿根アスターの1～4月出し栽培は、10～12月出しを行った株をすぐに加温・電照するため、吸枝の発達・伸長が遅く、生育が不揃いとなり、開花時の花数が少なくなるなど、切花品質が低下している。また、10～1月出し栽培は、夏季に良質の吸枝が発生しないため、挿し芽による苗作りが行われているが、良苗生産が困難な状況にある。そこで、10～4月出し栽培における切花品質の向上と夏季の良苗確保並びに省力化を図るために、吸枝（株）の低温貯蔵技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①10～1月出し栽培では、前年の親株から生じた吸枝（株）を1～2月に掘り上げ、0～-2℃で長期貯蔵する。この苗を7月下旬から9月下旬にかけて順次出庫して定植する（表2）。
- ②1～4月出し栽培では、8月下旬以降に発生する吸枝（株）を2.5℃で低温貯蔵し、10月から12月にかけて定植すると開花が早まり、切花長や切花重量、花数が増加して切花品質が向上する。貯蔵期間は、10月定植では7週間、11月と12月定植では5～7週間とする（表1）。
- ③吸枝（株）の低温貯蔵による切花生産は、苗作りのための親株管理や挿し芽等の労力が省力化されるとともに、無摘心で栽培することにより開花が促進し、切花長、切花重量等の品質が優れる（表2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①宿根アスター切花産地における品質向上技術として活用する。
- ②吸枝（株）の低温貯蔵は、株の水分が多いと冷蔵中の腐敗の原因となるので、掘り上げは晴天日とし、ポリエチレン袋に詰めて乾式で行う。
- ③定植直後から深夜3～4時間の電照を開始する。消灯時期は、一次側枝が15～20cm程度伸長した時（定植後8週間程度）とする。

[具体的データ]

表1 宿根アスターの1~4月出し栽培における吸枝の低温貯蔵期間と開花及び開花時の諸形質 (品種: ピンクスター1号、平成3年)

定植日	低温貯蔵期間	平均開花日	切花長	切花重量	節数	花数
月/日	週間	月/日	cm	g		
10/20	0	2/13	69	22	42	38
	3	2/ 3	72	24	32	32
	5	1/29	72	28	32	57
	7	1/27	73	39	36	123
11/20	0	3/21	85	37	38	39
	3	3/16	88	38	37	40
	5	3/13	93	42	39	78
	7	3/11	97	45	41	116
12/20	0	4/23	90	33	37	36
	3	4/21	101	41	40	44
	5	4/19	113	51	46	79
	7	4/18	115	60	43	107

注) 貯蔵温度は2.5℃。定植直後から深夜3時間の電照を開始し、10、11、12月定植でそれぞれ12月20日、1月28日及び3月2日に消灯。栽培温度は夜間最低気温10℃。

表2 宿根アスターの10~1月出し栽培における吸枝の低温貯蔵と開花及び開花時の諸形質 (平成4年)

品 種	定植日	貯蔵温度	摘心の有無	平均開花日	切花長	切花重量	節数	花数
	月/日	℃		月/日	cm	g		
ピンクスター-2号	7/20	0	無	10/21	91	42	71	269
		有	11/ 1	76	21	52	117	
	-2	無	10/22	98	48	73	298	
		有	11/24	99	58	57	177	
	8/20	0	無	12/ 8	78	25	52	50
		有	11/24	98	55	57	152	
	-2	無	12/27	114	73	61	162	
		有	1/ 5	79	26	35	51	
9/20	0	無	12/27	104	64	53	120	
	有							

注) 平成4年2月27日から吸枝を貯蔵。定植直後から深夜3時間の電照を開始し、8週間後に消灯。摘心は定植後10日目。栽培温度は夜間最低気温12℃。

[その他]

研究課題名 : 宿根花きの開花調節

予算区分 : 経常

研究期間 : 平成4年度 (平成2~4年)

研究担当者 : 谷川孝弘、小林泰生、坂井康弘

発表論文等 : 園芸学会九州支部研究集録第1号 (1992年)

平成2~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書